

町営斎場建替に係る説明会 開催記録

○日時 令和4年5月9日 午後6時30分～午後8時38分

○場所 中央公民館 大講堂

○参加人数 85名

○余市町

町長 齊藤 啓輔

副町長 細山 俊樹

民生部

民生部長 篠原 道憲

環境対策課長 大森 直也

主幹 山本 芳和

主任技師 桂 芳之

建設水道部長 千葉 雅樹

・町長挨拶

- ・説明内容
 - ・現町営斎場（火葬場）敷地での建設を見直した理由
 - ・候補地選定に至った経過
 - ・都市公園予定地が候補地となった理由
 - ・想定される町営斎場の規模について
 - ・今後の事業の進め方について
- （スライドをスクリーンに表示し説明（PowerPoint））

○質疑応答の概要

参加者： なぜ連休中に受付を設定したか。 周知が足りない。

町職員： 4月27日配布の広報にて折込んだほか、町HP・LINE・道新に掲載。
5月2日～5月6日の間、休日でも受付できる体制をとっていた。
電話・FAX・直接持参・ネット申し込みがあった。

参加者： インターネット申し込み以前に、2～3日で受付期間が短い。

町長： 広報・道新等で周知している。 意見として承る。

参加者： 公害対策審議会をやっていた。 候補地選定に至った経過、選定理由の説明が不足している。

町職員： 利便性や周辺の環境等、立地条件の優位性やスケジュール・コストを考慮し、総合的に評価。 都市公園予定地と旧栄小学校が高評価となり、その一つの都市公園予定地を第一候補地とした。

参加者： 候補地が7箇所から2箇所になり、検討した結果だと考える。
終の施設として、早期実現をお願いします。

町職員：早期完成を目指し取り組みたいと考えています。

参加者：2月の道新で7箇所、3月の道新で都市公園予定地を候補地にと掲載され、様子が見えてきた。それまでは一切わからなかった。

民意の同意、住民との合意形成の過程、行政サイドのからの周知、方法、やり方が妥当でなく、この説明会は事後の承諾説明会なのか。意図が見えない。

区会の意見を反映するシステムができてない。

2月（17日）に突然、民生部の課長が私の所へ来たが、それまでは全然わからない。

4月に部長と課長が訪ねてきて、黒8区会の3役会での説明や、黒8区会のみでの説明を求めてきたが、黒8区会だけでなく全体の意見を必要ではないか。

住民への丁寧な説明、情報が行き渡る方策を考える必要があるのではないか。

町長：経過、現状を説明。

地域への説明には至らない部分もあったと思いますが、担当部局も事業のために最善を尽くしている。

福祉の向上のために一部に負担を強いることは好ましくないことは理解したうえで町民全体の利益を考え、職務を進めるよう指示している。多少のコミュニケーション不足もあるが、協力していただきたい。

参加者：以前の役場組織、20年ほど前の火葬場の経過等について提言。

昔は現計画地（梅川）での建設は難しいとなっていたが、そこで地すべりが起きた。前任者の技術的な問題だったのであればミスはミスで町民に報告すべきであった。

そして今回のように新聞で知ることとなり町民は驚いているのではないか。

宇宙記念館の件もあった、町を二分しかねない。

報告のないまま、適地選定で場所が示された、今回の件はゼロからやり直すこと。

余市のいい所にマイナスイメージがついてしまう、もう一度基本に戻り、パブリックコメントから始めることを提案します。

町長：負の事故も含めすべて引き継いでいると思っており、議会を通じて報告・謝罪をしております。

町営斎場をマイナスイメージとの認識はない。

参加者：余市のまちづくりは坂本角太郎さん竹鶴政孝さんが大きなイメージを作り余市川周辺を開発してきている。町の総合計画の中で揺らぎない計画だったと思う。

余市川の桜のきれいなところで様々なことをたくさんできると考え、火葬場はイメージと異なる。

参加者：建替が必要なのは理解する。

候補地7箇所が2箇所になった経過、コンサルの答申、どこで検討されたか。

民生環境委員会で適地の結論を報告しているが、ここで検討した経過があるのか。

やはり、迷惑施設との考えがある。議論が少なすぎ、あまりにも稚拙な理論不足の結論提案ではないか。いま出されているこれらの意見をどう反映させるのか、聞いて終わりとなるのか、議論内容を検討するのか。

町職員：評価方法や評価の過程、候補地選定の過程を説明。客観的な数値化により都

市公園予定地と旧栄町小学校に2箇所が選定された。
これら評価結果を議会に提出し、説明させていただいた。

参加者： 都市公園予定地はもともとゴミ捨て場であり、昔は分別がなくひどい状態だった。そして町が買い上げ、地盛り整備し現在のグラウンドになっている。
桜並木があり、花見・ウォーキングなど非常に楽しみに感じていた。
町の総合計画で都市公園となっている。
期待していたものとギャップがありすぎて憂慮している。
景観がもったいなく、いやなものである。
失政として残るものではないか。

町職員： 周辺環境とも整合を図り、地域の特徴を生かしながら考えたいと思います。

参加者： 町側の不手際が目立ちます。
過去、下水処理場計画が反対され都市公園予定地から登に変わった経過がある。
2階建てか、平屋か。雪捨て場はどうなるのか。
ここで建て替えの一本やりの話にしか聞こえない。

町職員： 候補地となった理由は最初スライドでの説明であったとおりであり、建物は一定の面積を必要とし、平屋で考えている。
雪捨て場については、国・道とそれぞれの管理者とこれから具体の話を進めたい。

参加者： 7箇所の候補地となっているが、それ以外に良い場所があったのでは。
栄小学校や登市民農園はどうか。
別案件であるが、合同墓を町営で検討しては。

町職員： 栄小学校は高い評価となっている。しかし、町の中心地からのアクセス面等で利便性が劣っている。登市民農園はアクセス面、道道から町道経由し道路幅員が狭いことで利便性に欠ける。候補外。
現在、余市には合同墓はないが、他町村の動向を見ながら今後は調整したい。

参加者： 合意形成がないのではないかと。
もう一度やり直すべき。町民に委ねるべき。

参加者： 火葬場を作るときは目立たない場所が賛意を得やすい。
住宅街や小学校の傍の火葬場が紹介されたが、火葬場ができた後に街ができたのであって、策略が見える。
街のど真ん中に作る必要があるのか、町長が進めるワイン産業や観光で足を引っ張る。

参加者： 不誠実だ。過去10年間火葬場に関する議事録や記事を調べ、費やした事業費は4億円。で選定に至った。
地すべりが発生し、中断。ここに建設はムリとなり、候補地の選定はコンサルタント。
しっかり議論し、議会での報告はもちろん、町民の意見を結集すべき。

町長： 町民の意見を吸い上げたいと考えてもおり、町民の力も信じている。
町民一丸となって町政執行ができると思っている。

議会の傍聴も全然いない状況である。民意の反映は考えているが。迷惑施設というそんな考えは持っていない、最期を送り届ける施設と認識。議論を白紙に戻し、ゼロからスタートするといつになっても出来ない。(都市公園予定地は)40年も前の計画で、現在何も計画はなく、雪捨て場として使われている現状である。これらを考慮し都市公園予定地が適地であると判断した。決定する者がいなければ全ての物事が進まない。意見をいただいて最終判断をする。

参加者： 住民不在で候補地選定がされている。町民参加で進めるべき。平成29年区会連合会で嶋前町長が新しい斎場のイメージ図を見せてくれた。区会連合会をもっと活用して進めるべきである。

町長： 5月末の区会連合会で投げかけても良かったが、急ぐよう指示した経過があった。これまでのプロセスに納得いただけないようであるが、選定をゼロに戻し、やり直すと、時期がむやみに延びる。コスト等のデメリットがある。引き続きコミュニケーションをとりたい。

参加者： 住民に判断を委ねてはどうか。住民投票案件ではないか。町長選もあり、町民に諮るべきではないか。

参加者： いろいろ説明いただいたが、このまま進めて良いのか判断してください。大切な人を最後に送る出す施設、イメージ云々もあるが早く進めてください。

参加者： 反対派が9.5割集まっているようだが、多くの人が火葬場は迷惑施設だという潜在意識がある。昔とは違う。今は迷惑施設ではない。昔は確かに黒煙が出て、臭いがあり、迷惑施設であったが、今は煙突もない。昭和30年代建設省の建設に係る指針(計画標準(案)建設省昭和35年)が出ており、学校や市街地からの離れについて縛りがあったが、今は一般の公共施設であるとの認識から、平成12年頃に指針が廃止になったと理解している。最期の施設を迷惑施設とするのはどうか。潜入観念は払拭すべき。いろいろな意見があるが、町長の意見を尊重する。

参加者： 説明会で使用したスライド、候補地が2箇所となった経緯が分かるコンサルタントの報告書を、町ホームページで情報発信をすべき。

町長： 候補地評価は議会に出している。わかりやすい形で担当から。これまで投資した費用が4億円で、全部建設となると15億円ほど掛かる案件となる。

参加者： 今回の説明会で終わるのか。再度会議を開催するのか。葬儀屋からの距離等で場所を選定するのはいかがなものか。傍の住民の声を吸い上げ、皆の発言を次に生かす議論を。

町長： 付近の住民にとって非常に問題となる施設である認識はあるが、時間の経過も考える必要がある。賛成や反対、様々な意見がありましたので、論点をまとめて、もう一度開催の指示を出したいと考えている。

参加者： 広域連合（連携のことか）を考え、選定しているのか。

町単独と広域では規模が違ふと考えるが、今の場所で不可能かスーパーゼネコンに確認するなどしないのか。 どの段階で誰ができない判断をしたのか。

町長： スーパーゼネコンの確認はしていないが、大雨や湧水により地すべりが発生したのは事実であり、対策工により敷地が狭くなった。この場所でのできる可能性もあるが、安全性等のリスクを考慮し判断した。

参加者： そんなことはないと思う。

町長： 役場も根拠をもって判断しており、大丈夫か否かを根拠なしで話すと水掛け論になる。 今後数十年単位で使用し、未来に繋ぐような場所を選定する必要があると考えている。

参加者： 議会議事録では、令和元年に法面が崩れそうだと工事を中断した、さらに令和2年8月25日には部会の議員が現地調査をし、その結果、町長の判断でここでは工事はできないと判断をしたと、議会で説明されています。

参加者： 湧水、地すべりがあり、この敷地内で建てるのが難しくなり、別の建設地を検討したと考えるが、できないことはないと思う。

山側の敷地を掘削し、湧水等の対策をし、配置変更を行えば今の土木建築の技術で不可能なことはない。

現在の場所で建築・土木技術面でコンサルから提案はなかったのか。

参加者： 私も建設業、土留めの仕事に携わってきました。 スーパーゼネコンまでは必要ないと思う。

排水ボーリングと押さえ盛土で対策したと説明があったが、やはり法面工やシートパイプを打ち込む対策など、それらを検討して難しくなった等の説明でなければわからない。

100年に一度あるか無いかの問題であれば、都市公園予定地でも同じで、昭和34・5年には大氾濫が起きており安全なのか。

今の場所でも十分対応可能ではないか。

町職員： 対策工法はコンサルタント協力のもと検討しており、押さえ盛土のほか、擁壁・グラウンドアンカー等、他の工法も比較検討し経済性・将来的なものも考えたうえで対策し、一定の安全性を確保している。

掘り下げたことにより事象が発生したので、押さえ盛土のほか他の工法でも多少の面積は減少し、当初計画していた建設面積を確保できない状態にはなっている。

それらを踏まえ、適地選定7箇所に現計画地梅川を含めて評価した。

参加者： 説明資料、評価結果をPDFで掲載できるか。

町職員： 説明資料と評価についても概要等をホームページに掲載したいと思います。

閲覧希望者は役場で閲覧可能とします。

参加者： もう一度説明会を開催しますか。

町長 : やります。

参加者 : 施工業者やコンサルタントの法人名を教えてください。

参加者 : 都市公園が候補地に対する問題と、地すべりに関する経緯の問題があるので、それをもう一度整理し、緊急にもう一度開催してください。

参加者 : これら問題点があるので、最終決断してください。

参加者 : 全町での説明会をもう一度行いますか。

町長 : 現火葬場の場所での安全性の部分、別の場所でゼロから始める場合の時間的なこと、地域住民の理解をいただけるよう、これら論点をまとめて説明会開催の指示をします。

参加者 : 論点、論点ばかりで時間だけが経過してる、切り上げて、再度開催したらいいと思います。 皆の意見、町長の意見を聞けるので。

町長 : ありがとうございます。

町職員 : まだご質問ご意見等あると思いますが、本日の町営斎場建替に係る説明会を閉会します。

(午後 8 時 3 8 分終了)